

## 『水の中に砂を入れると…』 2歳児 6月



### エピソード

水を溜めたタライに大きなスコップで砂を入れたA児。水に砂が入ったことで、もくもくと煙が上がるように砂が広がりました。驚いた表情で見ていたA児は再びスコップで砂をすくい、タライに入れました。砂を入れると水が茶色に変わっていき、「わっ」「おっ」と目を開きながら、水の様子が変わることを面白がっていました。また、砂を入れる時に水しぶきが上がり、「うわっ」と水を避けてニヤリとするA児。「お水、びよんってしたね」と保育者が言うと「びしょびしょ～」と嬉しそうな様子です。

その後もA児は「へいっ」「それー」と言いながら、スコップで砂を入れ、「茶色や」と呟きます。保育者もスコップで砂を入れ、色が濃くなっていく様子や水が跳ねる様子を一緒に見ていました。

A児が少し場を離れてからタライのそばに戻ってくると、水たまりができていました。A児はじっと水たまりを見つめ見渡した後、しゃがんで、スコップで水を触ったり足踏みをしたりしていました。

### 保育者の思い

保育者は“タライから水をすくって、砂に混ぜて遊ぶだろう”と思っていました。ところが、A児のしたことは“砂をすくって、タライの水に入れて遊ぶ”。柔軟な発想で遊びを考えていきたいと保育者に思わせる最初の姿でした。

水の変化や水しぶきに面白さを感じていた様子には、一緒に遊び、楽しさに共感することで、もっとやってみようという思いにつながると考え、A児の行動を真似て、同じ動きをして遊びました。目の前で起きていることを言葉にすることで、楽しい・面白いと感じていることを具体的に感じ取れたらいいなという思いもありました。

水たまりを見つめ、動きが止まった時には、水面が動く様子を見ていたのか、泡や色が違う部分に気付いたのか…どんなことを思っていたのかはわかりませんが、自分なりに気付いたことを大事にしてほしいと思い、見守ることにしました。

### 子どもの育ちや学び

子どもたちは砂や水に触れることで気持ちよさを味わって心がほぐれ、伸び伸びと遊んでいます。砂や水の変化、不思議さ等の気付きは、今は感覚的なものですが、繰り返し遊ぶことで様々な物の性質や特徴に気付いていくことにつながっていきます。また、そうした気付きを得ていることが表情や言葉から伝わってきました。そばにいる保育者に思いを受け止めてもらう経験が周りの人とかわる楽しさや思いを伝える喜びへと広がっていくと思います。

### 家庭だったら…

ご家庭で“水”といえ、身近なのはお風呂ではないでしょうか。水面を叩いて水を跳ねさせたり、洗面器をひっくり返して水を流したりするだけでも、水の動きを見たり触ったりすることができます。「バシャバシャしたの」「お顔に水がかかったね」等、やりとりをしながら、水の気持ち良さや不思議さを一緒に味わってもらうことで、子どもたちの感覚も研ぎ澄まされていくと思います。

### 〈おまけのエピソード〉

砂場で裸足になって遊ぶ友達に気付き、「Aくんも“はだしんぼ”したい」と保育者に伝えに来たA児。裸足になりたいと思ったことを、自分の知っている“はだかんぼ”から考えたであろう“はだしんぼ”という言葉で伝えたことに驚いたと共に、A児のかわいらしい言葉に心温まりました。